

佐賀中学校

『人間を大事に』

『自他ともに大切にすることができよう』

校長 宮崎 宏治

◆はじめに

本年度は校区の拳ノ川小より3名、伊与喜小より2名、佐賀小より10名、計15名の新生を迎え、全校生徒46名、教職員17名(学習支援員を含む)で2021年度の教育活動がスタートしました。

本校では長年に渡り『人間を大事に』『自他ともに大切にすることができよう』を学校教育目標に掲げ、人権・同和教育を基本に据えながら、さまざまな教育活動に取り組んできました。また、2012年に内閣府が公表した南海トラフ地震の被害想定で全国最大級の34・4mの津波高が示されてからは、防災教育にも力を入れて取り組んでいます。

◆本校の目指す生徒像

子どもたちが生きる現代社会は、グローバル化の進展やAIの急速な発達などによって、変化が激しく将

来の予想が困難な時代と言われます。現在世界中を混乱の渦に巻き込んでいる新型コロナウイルスも、まさに先行きが見えない今の時代を象徴しているものです。

こうした時代にあつて、子どもたちが自らの可能性を発揮しながら主体的に未知の課題に向き合い、仲間とともに解決し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるために必要な力を育成することが求められています。同時に、少子高齢化が急速に進む中、将来の黒潮町を支える人材を育成することも求められています。こうしたことを踏まえ、本校では、育成を目指す生徒像を次のように設定しています。

- 学ぶ意欲を持ち、自ら考え行動できる生徒(学力向上)
- 自他の違いを認め、他者を大切にできる生徒(確かな人権意識)
- ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する生徒(地域コミュニティの一員としての自覚)

◆本校の主な取組

前述した目指す生徒像に迫るため、今年度は次のような取組を行っています。

1、チーム学校での授業改善

中学校は小学校と異なり、教科ごとに指導する教員が変わります。そのため、教員によって教え方がバラバラにならないように全員で足並みを揃えて授業をすることができよう、年間を通して授業づくりの研修を行っています。特に、根拠を添えて自分の考えを説明したり、頭の中で考えたことを言葉や数式などで表現したりするといった思考力・判断力・表現力の育成に取り組んでいます。

2、ICT機器を活用した学習の推進

生徒一人ひとりに個人持ちパソコンが配布され、日々の授業や家庭学習でパソコンを活用した学習ができるようになりました。学校では、定期的にICT活用研修を行い、教員の指導力の向上を図っています。また、災害や新型コロナウイルスによる臨時休業にも対応できるように、遠隔授業の準備も進めています。

3、加力指導の充実

基礎的・基本的な学習事項の定着に向け、年間を通じて週4日放課後加力学習を全校で実施しています。

4、ふるさと・キャリア教育の推進

本校には、「佐中祭」や「全校生徒による独居老人宅訪問」といった何十年も続く伝統行事があります。これらの行事を通して、生徒は地域の方々と触れ合うことができ、毎年実施する道徳意識調査では、7割を超えている生徒が地域に関心があると回答しています。こうした生徒の実態を基に、さらに地域の課題を自分ごととして捉え、地域コミュニティの一員として主体的に課題を解決しようとする態度を育成するために、昨年度から総合的な学習の時間で、防災・人権・地域振興などをテーマに探究的な学習に取り組んでいます。



の人たちの想いに触れたり、中学生が地域の方から頼られていることを実感することができています。

5、佐賀小学校との連携の推進

本校は、令和2年度から佐賀小学校と合同で県教育委員会から「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」の指定を受け、生活科・総合的な学習の時間における小中9年間の一貫性のあるカリキュラム作りに取り組んできています。今年度は、中学校と小学校の教員の交流授業や貫歩大会(二次避難訓練)を合同で実施するなど、連携の強化を進めています。

6、学校運営協議会を柱とした地域連携の推進

令和2年度に佐賀小中学校で学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールとしての活動を開始しました。これまでの「地域が学校に対して何ができるか」から「学校が地域に対して何ができるか」へ発想を転換することで、これまで以上に地域と学校との結びつきを強めていくよう取組を進めています。

入野小学校

GRIT(やりぬく力)で、
FCP能力を高める！

校長 前田 浩文

◆はじめに

この春、30名の新入生を迎え、全校児童129名で、2021年度教育活動がスタートしました。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校行事などの延期や内容の工夫が余儀なくされているところ。今、まさに予測困難な社会の変化に対応できる力と知恵が求められています。

そこで、どんな状況になっても、自ら考え、判断し、未来を切り拓いていける子どもの育成を目指して取組を進めています。

◆学校教育目標

「GRIT(やりぬく力)で、FCP能力を高める！」

今年度もGRITを教育目標に掲げました。これは、学校の生活全般を通して、相互に作用し、何かを生み出す力(F・ファシリテーション能力)と互いに協調・協働することが出来る力(C・

コミュニケーション能力)、そして、大勢の前でも堂々と発表をやり抜く力(P・プレゼンテーション能力)を高め、子どもたちが何事に対しても、あきらめずに最後までやりぬいてほしいという願いを込めています。

◆学力向上

各種学力調査結果を分析すると、全体的に活用力の領域(根拠を基に筋道を立てて説明する力)に弱さがあります。

その課題を克服するため今年度は、町教育委員会指定事業である「対話型授業づくり」を受け、国語科を中心に研究を進めています。

主張・理由・根拠を意識して、相手にわかるように伝える術をペアやグループ学習を通して身につけます。また、タブレット端末が1人1台導入されていますので、先生

と児童、そして、児童同士がデジタルで自分の考えを交流する



ことができる新たな環境も整っています。デジタル時代の子どもたちですので、タブレットの活用は上手のもので。

アナログでも、デジタルでもいろんなツールを使つてさまざまな

情報を収集し、知識を身につけてほしいと思っています。同時に、目的

に応じて適切に情報を取捨選択し活用する力(情報リテラシー)も備える必要があります。

そうして獲得した知識は、生活の中で活かされて初めて、確かな学力として評価されると考えます。

先生や友だち、そして、家庭や地域で、多くの人との交流を通して、よりよく生きるための知性に磨きをかけてほしいと願います。

◆豊かな心

授業では道徳や人権学習を通して、礼儀や親切・思いやり、感謝、善悪、いじめについてなど、人としての生き方を考えたり、話し合ったりしています。

児童の自治活動としては、



児童会役員が、毎週月曜日の生活朝会で「入野小いじめゼロ宣言」を読み上げて啓発しています。また、「いじめ相談室」を開設して、いじめのない楽しい学校にするための環境づくりにも努めています。

◆体力向上

体育授業はもちろんのこと、運動会、水泳記録会、陸上記録会、マラソン大会などの行事で多様な動きと体力を高めるために年間を通して計画的に取り組んでいます。ただ、今年度も、新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながら工夫した取組をしているところです。

◆ふるさと・キャリア教育

子どもたちが故郷を愛し、故郷に誇りを持ち、人の役に立つ生き方ができるようにと願って、地域総がかりで支援していくのが「ふるさと・キャリア教育」です。

地域の良さや産業、商業、観光などについて調べたり、取材をした



りしながら故郷への愛着を深めています。そうして学びとった成果を発表する場が「まるごと教育祭」です。保育園・小学校・中学校・高校・地域の皆さんが一堂に会して交流しました。

ただ、今年度も新型コロナウイルス感染症防止のため、IWKが撮影した子どもたちの発表の様子をケーブルTVで放映することになりました。

◆連携

「入小の子どもを育てる会」(学校運営協議会)の委員である区長さんや関係機関の皆さん、地域学校協働本部の民生児童委員さん、そして、「PTA各部」の皆さんが、交通安全指導や、スポーツ大会指導、校外学習の引率、避難訓練安全見守り、裁縫・調理実習、水泳特練支援、放課後学習、ピアノの伴奏、草刈りなど、多岐に渡って直接・間接的に関わっていただいています。子どもたちには、さまざまな人との出会い、関わりを通して地域の一員としての自覚と社会性を身につけてほしいと思います。